

### 3.4 概査（近接目視点検）

#### 3.4.1 基本事項

##### （1）概査の目的

概査は、日常管理で「追加調査が必要」と判断された場合に行うもので、同一の地すべりブロックに対し、同一の仕様で設計・施工された一群のアンカー工を対象に、原則全数のアンカー頭部及び受圧構造物の調査と施設周辺の調査を行う。

アンカー頭部及び受圧構造物の調査は、施設に近づき外観の近接目視による点検を行うものである。一方、施設周辺の調査は、地すべりブロック周辺での地表変状を確認するものである。概査段階では、これらの結果に基づいて詳細調査の必要性を判断する。併せて、日常管理と同様に緊急性の有無も判断する。これらの作業は、地すべりとアンカー工に精通した専門技術者が行うことを想定しており、調査結果に基づいて今後の施設の維持管理方針を提案する。

調査の単位は、同一規格のアンカー施工範囲（同一の安定計算・設計計算によって、同一の材料・配置を採用しているアンカー群）毎とする。

概査は、具体的には以下3点を主目的とする。

- ① 現段階で明らかに異常と判断される事象の定量的把握
- ② 個々の異常事象とアンカー機能との関連性の推定
- ③ 機能低下につながる要因の考察

##### （2）概査の調査票様式

調査は、決まった様式を用いて行うことが望ましい。概査に用いる調査票の様式例と記入例を表 3-20～表 3-29 に示す。これ以降、概査に表 3-20～表 3-23 を用いることを前提として、概査の内容について述べる。

##### （3）概査の準備

既存資料（日常管理時、その他過去の点検結果記録、基本情報調査結果）を確認し、以下の作業を行う。

##### 1) 既存資料の確認・転記

既存資料と実際のアンカー規格が異なる場合もあり、現地で既存資料記載事項を確認する。また、点検を効率的にもれなく行うために、平面図及び配置図を準備し、現地確認・結果の記入に用いるとよい。既存資料から以下の各項目の内容を確認し、概査調査票に以下の項目を転記する。

##### ① 表 3-20（1）基本事項

- ・ 区域名 ・ 地すべりブロック名 ・ 施設名 ・ 施工年度 ・ アンカー本数 ・ 旧タイプアンカー（該当・非該当）

⇒旧タイプアンカーに該当する施設とは、確実な防食が行われていない（二重防食になっていない）ものである。防食構造が不明な場合は、施工時期で判断するか頭部保護の構造（外観）で判断してもよい。

② 表 3-20「基本情報調査結果の現地確認」

- ・アンカー工法 ・アンカー間隔（縦×横） ・配置（段×列） ・受圧構造物仕様
- ・受圧構造物の規格 ・既往変状 ・活動履歴

③ 表 3-21「平面図」

④ 表 3-22「アンカー工配置図」

⇒段・列の固定番号を図 3-19 に準じて与える

上記に関する情報は、概査時に現地と整合がとれているか調べ、その結果を記録する。

## 2) 対象施設・点検ルートの設定

日常管理で把握された異常箇所を含むアンカー全施設（原則）と、地すべり変状発生の想定箇所を効率的に確認できる点検ルートを設定する。既設の観測施設がある場合は、その位置を確認する。

## 3) 点検時期の設定

既存資料を参考に、点検時期を設定する。点検時期は、当該地の気象水文条件に適合するよう適宜設定するが、目視による点検であるため、草木の除去・伐採等の管理が良好に実施されている場合を除くと、落葉期・融雪期等の実施が効率的である。アンカー工の引張り力は、気温等の影響による年周期の変動があることも知られているため、計測を併用する場合の点検時期には留意する。

## 4) 立入準備

日常管理の状況を踏まえ、現地への立入準備を行う。日常管理と違い、概査は全数点検が原則であるため、施設周辺の伐採作業が必要になることが多い。場所によってはかなりの作業量となることが想定されるため、事前に現地状況をよく把握しておくことが必要である。十分な伐採を行うか、景観保護等のために伐採ができない箇所では、草木をかき分けて施設の目視点検を確実に行うとともに、地山変状の見落としを減らす。また、アンカー工は家屋に近いところに設置することも多く、場合によっては地元への作業の事前周知や協力依頼が必要となる。

なお、概査では以下に示す点検用具を一般に使用する。

- ①点検用具：点検ハンマー、メジャー、巻尺、測量ポール、角度測定器、クラックスケール計量カップ（湧水量の測定用）、電気伝導度計、双眼鏡 等
- ②記録用具：筆記用具、調査票様式、カメラ、黒板、チョーク 等
- ③その他：脚立、草刈用具 等

## (3) 概査の実施

現地において、アンカー頭部、受圧構造物、地すべりブロック範囲内の周辺斜面の調査を行う。

アンカー工については、日常管理時に異常が確認されたアンカーを含む全箇所について、外観の近接目視により異常箇所の把握を行う。なお、アンカー工では、不可視部分が多いことも考慮し、打音調査も併せて点検を行う。打音調査は、点検ハンマー等による軽打で固定部材の緩みを確認するとともに、健全部分との打撃音の違いから施設の劣化・損傷箇所を探る方法で、例えばプレートの浮きの有無確認や、頭部コンクリートのひび割れや剥離の状態などを推定できる場合がある。ただし、この方法は作業者の熟練度や作業環境に影響されやすいので留意する。

施設の破損、ずれ、傾き等が発生している部分を対象に、メジャー、角度測定器等による長さや角

度の簡易な計測を行い、その異常の定量化と進行状況把握に努める。

これまで個々のアンカーに番号が付けられておらず、新たに番号を割り振る場合は、図 3-19 に示す事例のように、番号付けを行う。

打設範囲の地形に不陸が大きい場合や施設配置に何らかの制約がある場合は、配置間隔が一定でなかったり縦横方向に並んだ格子状ではない場合もあるため、重複や計上漏れの無いよう留意する。現地作業では、間違いをなくするために、例えばプレートに番号を事前に記すなどの対応も有効である。

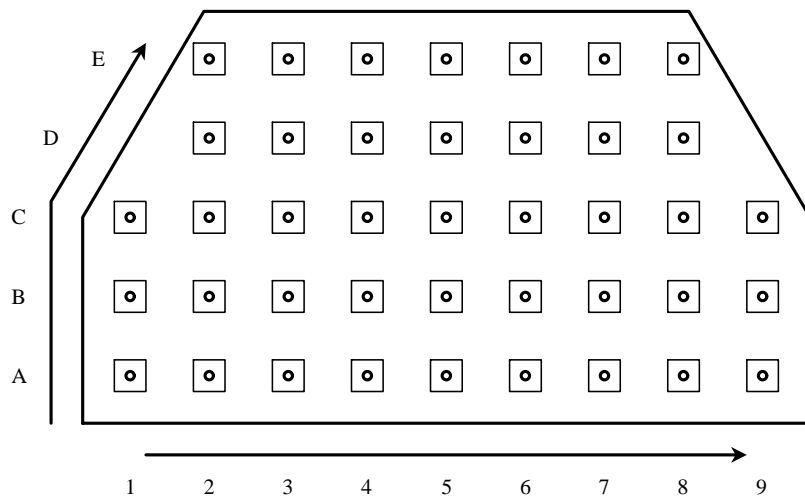


図 3-19 アンカーの番号の割り振り例

概査は、日常管理時と比べアンカー頭部を中心に作業を行うことから、全体に目が向きにくい。このため、はじめに施設を俯瞰的に見ながら全体的な状態の把握に努める。

見落とされやすい異常の例を、図 3-20 に示す。



図 3-20 見落とされやすい異常の事例

吹付砕工が下方へずれ下がり側部のコルゲートフリユームを押し潰している。アンカー頭部にのみ集中しすぎると、こうした異常を見落とすことがある。一方、周辺構造物の異常から間接的にアンカー工の異常を把握できる場合もある。

#### (4) 安全管理

概査は近接目視を基本としているため、墜落や転落には特に留意して作業を行う。急な斜面に設置されたアンカー工を対象とする場合は、安全带と親綱などを使うか、場合によっては高所作業車の使用や足場設置なども検討する。

#### (5) 概査結果の評価と対応

概査結果を評価し、必要な対応（詳細調査の時期・内容・方針等）を明らかにする。

また、新しい異常が明瞭であり、テンドン破断時に部材が飛び出す等、保全対象への影響も含めた懸念要素がある場合は、緊急対応・応急対策の可否についても判断する。

表 3-20 アンカー工 概査点検表 (1/4)

点検日 \_\_\_\_\_ 天候 \_\_\_\_\_

アンカー工 概査調査票(1/4)

点検者	
-----	--

区域名		地すべりブロック名		施設名	
施工年度		アンカー本数		旧タイプアンカー	該当 ・ 非該当

■基本情報調査結果の現地確認

項目	基本情報調査結果	現地確認結果	備考
工法			
間隔(縦×横)	×	×	
配置(段×列)	×	×	
受圧構造物仕様			
受圧構造物の規格			
既往変状・活動履歴			

■点検結果

○施設に関する事項

点検項目	レベル	異常が見られる項目	段																	
			番																	
ドテン	c	テンドンの飛び出し、抜け落ち																		
	c	頭部保護がない場合のテンドンの腐食																		
頭部コンクリート	c	頭部コンクリートの浮き上がり																		
	b	破壊・部分的な欠損																		
	b	0.5mm幅を超える程度のひび割れ																		
	b	頭部コンクリート背面からの漏水・錆汁																		
	a	頭部コンクリートからの遊離石灰																		
頭部キャップ	a	頭部コンクリート背面に隙間																		
	c	頭部キャップの浮き																		
	b	頭部キャップの損傷・緩み・欠落																		
	b	頭部キャップの材質劣化・肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
	a	固定ボルトの破壊・腐食・緩み																		
プレート	b	頭部キャップ背面からの漏水																		
	a	頭部キャップ周辺の防錆油漏れによる汚れ																		
	c	プレートが人力で回転可能																		
	b	頭部・プレートの浮き(目視による確認)																		
	b	プレート背面からの漏水																		
受圧構造物	b	プレートの肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
	a	プレート周辺の汚れ																		
	b	0.5mm幅以上の連続したひび割れ、段差等を伴うひび割れ																		
	b	受圧構造物の大きな変状																		
	b	受圧構造物の肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
その他項目 (評価対象外)	b	アンカー直下まで達するような大きな隙間																		
	b	受圧構造物周辺の湧水																		
		テンドンの飛び出し防止対策がある																		
		打音調査で異音を確認																		
異常アンカーの本数		本 ( 全数に対する割合 % )																		
		レベルの内訳	a	本	b	本	c	本												

※「異常が見られる項目」の「レベル」(a~c)は、様式-4概査結果評価票における個々のアンカーの健全性の判定に用いる

※アンカーに番号がない場合は、下からA,B,C・斜面に向かって・左から1,2,3・・・の順で番号を付ける

※点検結果の詳細は、様式-3(3)、(4)に示すこと

○地すべりブロック周辺での地山の変状

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンカー工が対象とする地すべりブロックの側方、頭部境界の変位の有無</li> <li>・ブロック内、境界周辺の段差、亀裂等の有無</li> <li>・アンカー工周辺を中心としたブロック内の湿潤(湧水)の有無(計測可能な場合はECを計測)</li> <li>・周辺構造物の変状</li> </ul>	有・無	特記事項
--	-----	------

※地すべりブロックの踏査結果は様式-3(2)、(4)に示す

■点検結果コメント

○その他確認された事象、異常の発生原因の推定等

--

表 3-21 アンカー工 概査点検表 (2/4)

点検日

天候

アンカー工 概査調査票(2/4)

点検者

区域名		地すべりブロック名		施設名	
-----	--	-----------	--	-----	--

基本情報調査による既往変状・活動履歴の有無

平面図(ブロック見取り図・写真撮影位置図)

表 3-22 アンカー工 概査点検表 (3/4)

点検日

天候

アンカー工 概査調査票(3/4)

点検者

区域名		地すべりブロック名		施設名	
-----	--	-----------	--	-----	--

アンカー工配置図(異常箇所位置)

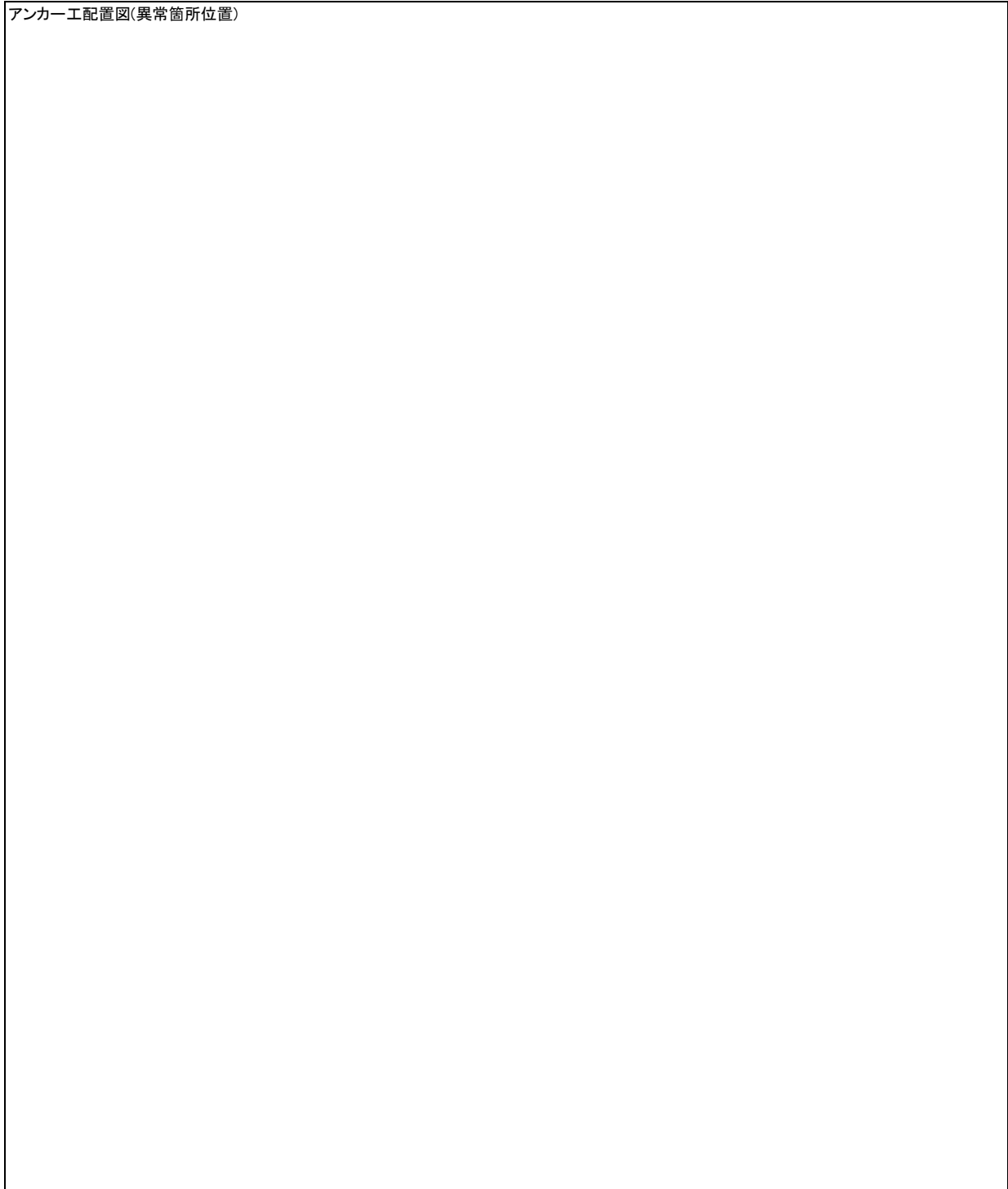


表 3-23 アンカー工 概査点検表 (4/4)

点検日

天候

アンカー工 概査調査票(4/4)

区域名		地すべりブロック名		施設名	
-----	--	-----------	--	-----	--

現地写真		No. /
------	--	-------

--	--

写真番号	写真番号
------	------

--	--

写真番号	写真番号
------	------

--	--

写真番号	写真番号
------	------



表 3-24 アンカー工 概査点検表（1／4）の記入例

点検日 2013/8/10 天候 晴れ

アンカー工 概査調査票(1/4)

点検者	〇〇 〇〇
-----	-------

区域名	「S」	地すべりブロック名	B-3	施設名	3号アンカー
施工年度	平成元年度	アンカー本数	32本	旧タイプアンカー	〇 該当 ・ 非該当

■基本情報調査結果の現地確認

項目	基本情報調査結果	現地確認結果	備考
工法	記載なし	VSL E5-3	
間隔(縦×横)	1.20 × 2.00	1.20 × 2.00	
配置(段×列)	2 × 16	2 × 16	
受圧構造物仕様	コンクリート板	コンクリート板	
受圧構造物の規格	矩形、現場打ち、L1.2×W2.0×t0.3	矩形、現場打ち、L1.2×W2.0×t0.3	
既往変状・活動履歴	なし	アンカー上部の段差地形	

■点検結果

○施設に関する事項

点検項目	レベル	異常が見られる項目	段番	検査結果						備考				
				A1	A2	B1	B2	A5	B5					
ドレン	c	テンドンの飛び出し、抜け落ち		〇	〇	〇	〇							
	c	頭部保護がない場合のテンドンの腐食												
頭部コンクリート	c	頭部コンクリートの浮き上がり												
	b	破壊・部分的な欠損		〇	〇	〇	〇							
	b	0.5mm幅を超える程度のひび割れ												
	b	頭部コンクリート背面からの漏水・錆汁												
	a	頭部コンクリートからの遊離石灰												
頭部キャップ	a	頭部コンクリート背面に隙間												
	c	頭部キャップの浮き												
	b	頭部キャップの損傷・緩み・欠落												
	b	頭部キャップの材質劣化・肉厚減少や浮きを伴う腐食												
	a	固定ボルトの破壊・腐食・緩み												
プレート	b	頭部キャップ背面からの漏水												
	a	頭部キャップ周辺の防錆油漏れによる汚れ												
	c	プレートが人力で回転可能												
	b	頭部・プレートの浮き(目視による確認)												
	b	プレート背面からの漏水												
受圧構造物	b	プレートの肉厚減少や浮きを伴う腐食												
	a	プレート周辺の汚れ												
	b	0.5mm幅以上の連続したひび割れ、段差等を伴うひび割れ												
	b	受圧構造物の大きな変状							〇	〇				
	b	受圧構造物の肉厚減少や浮きを伴う腐食												
その他項目 (評価対象外)		アンカー直下まで達するような大きな隙間												
		受圧構造物周辺の湧水												
		飛び出し防止対策が施されている												
		打音調査で異音を確認												

異常アンカーの本数	6	本(全数に対する割合 19%)	レベルの内訳	a	0	本	b	2	本	c	4	本
-----------	---	-----------------	--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

※「異常が見られる項目」の「レベル」(a~c)は、様式-4概査結果評価票における個々のアンカーの健全性の判定に用いる  
 ※アンカーに番号がない場合は、下からA,B,C・・・斜面向って・左から1,2,3・・・の順で番号を付ける  
 ※点検結果の詳細は、様式-3(2)、(4)に示すこと

○地すべりブロック周辺での地山の変状

<ul style="list-style-type: none"> <li>アンカー工が対象とする地すべりブロックの側方、頭部境界の変位の有無</li> <li>ブロック内、境界周辺の段差、亀裂等の有無</li> <li>アンカー工周辺を中心としたブロック内の湿潤(湧水)の有無(計測可能な場合はECを計測)</li> <li>周辺構造物の変状</li> </ul>	<p>有 ・ 無</p>	<p>特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック頭部に不明瞭な段差地形</li> <li>ブロック末端付近に1箇所湧水を確認</li> </ul>
--	--------------	--

※地すべりブロックの踏査結果は様式3-(2)、(4)に示す

■点検結果コメント

<p>○その他確認された事象、異常の発生原因の推定等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左側4本は頭部保護工が浮いている。A1アンカーは10cm程度飛び出している。</li> <li>目地の開きは、現状で変状に進行性はみられない。</li> </ul>
--

表 3-25 アンカー工 概査点検表 (2/4) の記入例

点検日 2013/8/10 天候 晴れ

アンカー工 概査調査票(2/4)

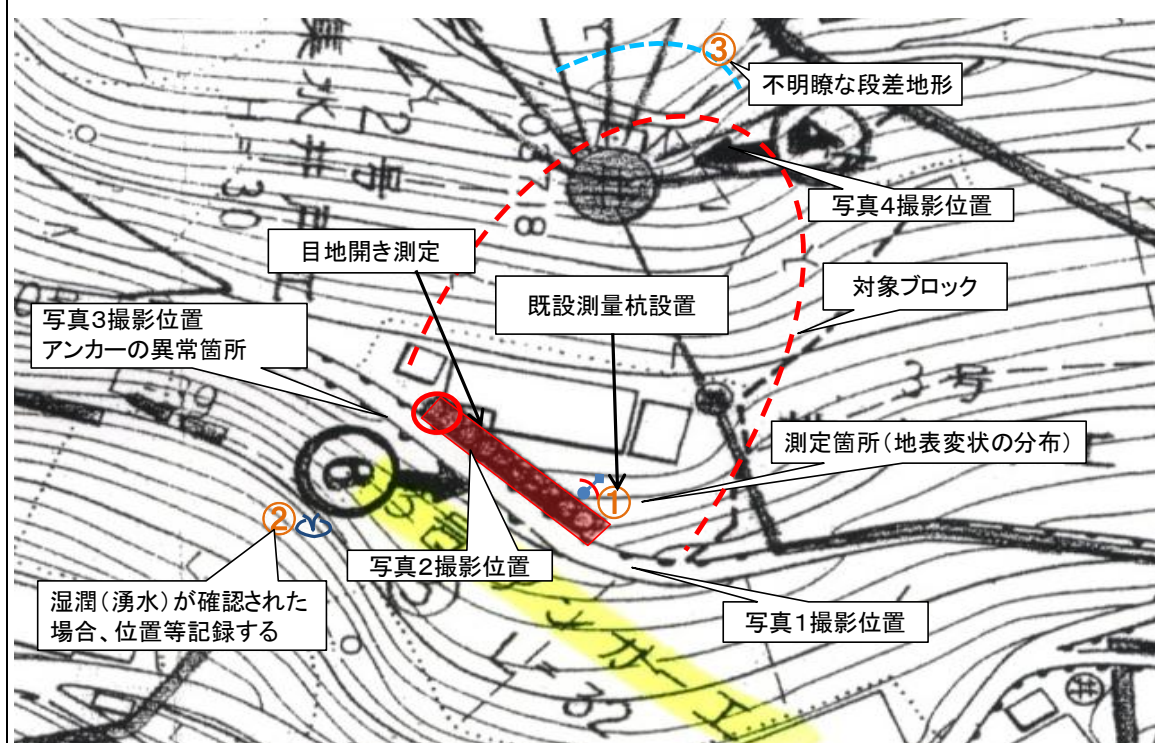
点検者 ○○ ○○

区域名	「S」	ブロック名	B-3	施設名	3号アンカー
-----	-----	-------	-----	-----	--------

基本情報調査による既往変状・活動履歴の有無

- ・地すべりによるブロック積工の押し出し(HO年〇月の豪雨)
- ・対策工施工後、当該地すべりの活動履歴はない

平面図(ブロック見取り図・写真撮影位置図)



H15.3設計報告書「計画平面図」を使用

番号	箇所	確認された事象	測定値
①	北緯 ° ' " 東経 ° ' "		測量杭間距離: 126cm
②	北緯 ° ' " 東経 ° ' "	湧水	湧出量: 5 mL/min EC: 0.2 mS/cm
③	北緯 ° ' " 東経 ° ' "	不明瞭な段差地形	

【記載情報】  
 基本的な情報の具体例は、以下の通り  
 ○地表変状(亀裂、段差、沈下等)  
 ○写真撮影位置概査  
 (概査調査票(4/4)と対応)  
 ○地表水・地下水情報(湧水等)  
 ○既設の計測施設(利用可能なもの)  
 ※ 必要に応じて追記する

表 3-26 アンカー工 概査点検表 (3/4) の記入例

点検日 2013/8/10 天候 晴れ

アンカー工 概査調査票(3/4)

点検者	〇〇 〇〇
-----	-------

区域名	[S]	ブロック名	B-3	施設名	3号アンカー	アンカー本数	32本
-----	-----	-------	-----	-----	--------	--------	-----

アンカー工配置図(異常箇所位置)

H15.3設計報告書「計画平面図」を使用

4-5 :コンベックスで目地開口幅を測定

③ 開口幅 12mm

① 4.0m

② 測量杭 126cm

B13上: 測量ポールで段差地形延長を測定

B13上: 既設の測量杭で段差地形を挟む2点間距離を測定

頭部保護工の浮き

目地の変位箇所

アンカー工 n=30孔 = 32孔

受圧版 L=32.0

H24点検で修正

番号	箇所	確認・計測した変状	測定値
①	B12~14アンカー上部	段差地形	延長: 4.0m
②	"	"	段差地形挟む 測量杭間距離: 126cm
③	4列と5列の間	受圧構造物の目地の開き	開口幅: 12mm

表 3-27 アンカー工 概査点検表（4/4）の記入例

点検日 2013/8/10 天候 晴れ

アンカー工 概査調査票(4/4)


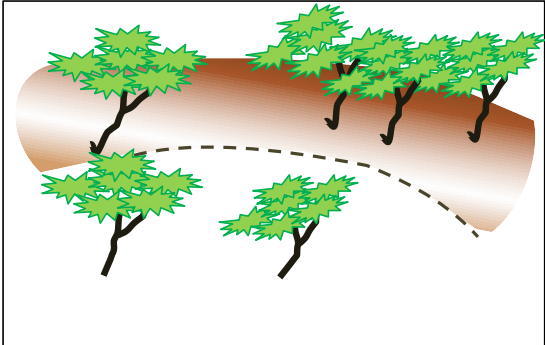


区域名	「S」	ブロック名	B-3	施設名	3号アンカー
現地写真		No. /			
					
写真番号 1	アンカー起点側の状況		写真番号 3	ブロック頭部状況 対策施工時のブロック頭部状況、変状の進展なし	
					
写真番号 2	アンカー頭部状況		写真番号		
					
写真番号 3	アンカー頭部状況 テンドンが飛び出している		写真番号		

表 3-28 アンカー工 概査結果評価表

点検日 \_\_\_\_\_ 天候 \_\_\_\_\_

アンカー工 概査結果評価票

点検者	
-----	--

■地すべりブロック及び対策工に関する主な情報

区域名		地すべりブロック名		施設名	
地すべり規模	幅 m × 延長 m × 深さ m	基盤地質		地すべり分類	
地すべり活動履歴		地すべり機構 (素因、誘因、すべり面形状等)			
既設対策工 (工種、数量、施工年)				初期安全率 目標安全率	工種別安全率分担 抑制工: アンカー工:
地すべりブロックの現況		対策工の点検、補修履歴			
特記事項					

■優先度の判定

優先度	優先度の目安	優先度判定	特記事項
小	現況として林地等が主な保全対象。地すべり活動や地すべり防止施設の機能低下があったとしても人的危険性や農業生産基盤に与える影響が小さい。	小・中・大	
中	現況として農地、農業生産基盤が保全対象。		
大	現況として家屋、道路、公共施設等が保全対象。地すべり活動や地すべり防止施設の機能低下によって人的危険が生じる恐れがある。		

■緊急性の有無

項目	緊急性の判断	緊急性判断	特記事項
地山の変状	地すべりの再活動が認められる。または、新たな変状が認められ地すべり活動の兆候がある	有・無	
施設の危険性	テンドンの飛び出し等があり、周辺の安全に対する影響が懸念される	有・無	

■概査点検の結果

判定要素	配点	4	2	1	0	合計点	特記事項
個々のアンカーの健全性 (最も異常の程度が高いアンカーの評価)		健全性に問題がある可能性が極めて高い	健全性に問題がある可能性が高い	健全性に問題がある可能性がある	—		
異常が見られる項目のレベル※		c	b	a	左記以外		
異常発生の割合 (設置されたアンカー全数に対し、異常が見られるアンカーの割合)		—	全体に対して50%以上	全体に対して20~50%	全体に対して20%未満		

※: 様式-3(1) ■点検結果 アンカー工に関する事項「各」異常が見られる項目「の」レベル(a~c)

■概査結果の評価

優先度	緊急性	評価	合計点(対応の目安)
小	無	iii	0、1点 定期的な日常管理へ復帰
中	有	ii	2、3点 一定期間後に再度概査を行う ※地山に変状がある場合は簡易計測等を併用する
大	有	i	4点以上 詳細調査を検討

評価のまとめ(今後の維持管理方針の提案)

■詳細調査が必要な場合の実施方針の提案(懸念される機能低下とその根拠、詳細調査手法と数量等の提案)

--

■概査結果評価に対する管理者側の処理方針

--



表 3-29 アンカー工 概査結果評価票の記入例

点検日 2013/8/10 天候 晴れ

アンカー工 概査結果評価票

点検者	〇〇 〇〇
-----	-------

■地すべりブロック及び対策工に関する主な情報

区域名	「S」	地すべりブロック名	B-3	施設名	3号アンカー
地すべり規模	幅 m × 延長 m × 高さ m 40m × 50m × 4m	基盤地質	風化岩	地すべり分類	風化岩すべり
地すべり活動履歴	・地すべりによるブロック積工の押し出し(10年〇月の豪雨)	地すべり機構 (素因、誘因、すべり面形状等)	素因: 脆弱な地質 誘因: 集中豪雨		
既設対策工 (工種、数量、施工年)	なし		初期安全率 0.95 目標安全率 1.20	工種別安全率分担	抑制工: 0% アンカー工: 100%
地すべりブロックの現況	対策工施工後、当該地すべりの活動履歴はない	対策工の点検、補修履歴	2010年施設点検履歴あり (当時異常は確認されていない)		
特記事項					

■優先度の判定

優先度	優先度の目安	優先度判定	特記事項
小	現況として林地等が主な保全対象。地すべり活動や地すべり防止施設の機能低下があったとしても人的危険性や農業生産基盤に与える影響が小さい。	小・中・ <b>大</b>	道路法面に設置されたアンカー
中	現況として農地、農業生産基盤が保全対象。		
大	現況として家屋、道路、公共施設等が保全対象。地すべり活動や地すべり防止施設の機能低下によって人的危険が生じる恐れがある。		

■緊急性の有無

項目	緊急性の判断	緊急性判断	特記事項
地山の変状	地すべりの再活動が認められる。または、新たな変状が認められ地すべり活動の兆候がある	有・ <b>無</b>	テンドンの飛び出しがある
施設の危険性	テンドンの飛び出し等があり、周辺の安全に対する影響が懸念される	<b>有</b> ・無	

■概査点検の結果

判定要素	配点				合計点	特記事項
	4	2	1	0		
個々のアンカーの健全性 (最も異常の程度が高いアンカーの評価)	健全性に問題がある可能性が極めて高い	健全性に問題がある可能性が高い	健全性に問題がある可能性がある	—	5	23本中6本のアンカー工に異常が見られた。レベルCに相当する異常(テンドンの飛び出し)がある
異常が見られる項目のレベル※	<b>C</b>	b	a	左記以外		
異常発生割合 (設置されたアンカー全数に対し、異常が見られるアンカーの割合)	—	全体に対して50%以上	<b>全体に対して20~50%</b>	全体に対して20%未満		

※: 様式-3(1)「■点検結果 アンカー工に関する事項」の各「異常が見られる項目」のレベル(a~c)

■概査結果の評価

優先度	緊急性	評価	合計点(対応の目安)
小	無	iii	0、1点 定期的な日常管理へ復帰
中	・	ii	2、3点 一定期間後に再度概査を行う ※地山に変状がある場合は簡易計測等を併用する
<b>大</b>	<b>有</b>	i	<b>4点以上</b> 詳細調査を検討

評価のまとめ(今後の維持管理方針の提案)
道路法面において、テンドンの飛び出しが生じており周囲に対する安全性に懸念がある。飛び出しに対しては飛散防止対策を含め、早急に対応が必要と考える(緊急対応)。平成元年度施工(旧タイプアンカー)であり、供用期間も長くなっているため、経年的な劣化等も含め詳細調査を早急に実施することを提案する。地すべりブロックは、古い亀裂のあとが存在するが、変状が拡大している傾向はみられないため、引き続き定点監視をしながら日常点検を継続することがよい。

■詳細調査が必要な場合の実施方針の提案(懸念される機能低下とその根拠、詳細調査手法と数量等の提案)

旧タイプアンカーのため、テンドンの腐食による維持機能の低下が疑われる。テンドンの飛び出し部は抑止機能が喪失している。詳細調査は腐食の状態により実施の可否が分かるため、頭部露出調査を半数程度優先的に実施することを提案する。その状態から実施可能であれば、リフトオフ試験を行い群としての評価をすることを提案する。 ・頭部露出調査: 14本(異常が確認されなかったアンカーの1/2を目安) ・リフトオフ試験: 14本(頭部露出調査を実施したアンカー全数とするが、詳細は頭部露出調査結果を踏まえて再検討する)
---

■概査結果評価に対する管理者側の処理方針

今年度中に提案された詳細調査を実施する すでに施設周辺の安全確保(緊急対応)は実施済み
--